

令和6年能登半島地震 被災地への市職員の災害派遣報告会における

質疑回答概要

日時：令和6年2月2日（金） 10：30～ 11：20

場所：守口市役所 行政委員会会議室

1 派遣職員2名からの帰庁報告（派遣期間1/22～1/29の8日間）

2 市長から労いの言葉

（市長の言葉の概要）

・今回の派遣で、派遣した2名の職員に対しては、市の代表として被災地支援に従事してもらい、まずは大変お疲れさまでした。少しでも現地の被災者に寄り添い、災害支援となったならばうれしい。

・災害支援ということで現地に行ってもらった立場であったが、災害はいつ発生するかわからないことから、我々も避難所運営等における経験・知識を吸収できたと考えており、このノウハウを市で共有して、今後発生するかもしれない災害対策に活かしていきたい。

3 被災地における災害支援の詳細について

別添の資料を参照しながら説明

4 質疑応答

Q1) トイレの状況は。

A1) とてもきれいな状態を保っている。避難者の衛生意識も高い。

Q2) 支援物資の状況は。

A2) 1月の後半に支援に入った時点では、全国からの支援を受けられており、充実していた。問題は、災害発生後、数日間は道路状況が悪く、支援物資が入ってこない状況であったとのことで、本市としても、大阪府域救援物資対策協議会に基づく備蓄はしているが、引続き「発災後数日間の食料等の備え」については考えていく必要があると感じた。

Q3) インフラ状況は。

A3) 電気は比較的早く復旧していることから問題はない。ただし、断水が続いている状況

なので、そこが一番の不自由な点であった。携帯電話(スマホ)も問題なく使用できた。

Q4) しんどかった点、ここが辛かったということは何か。

A4) 断水で、自由に水が使えない。お風呂に入れないところ。

避難所においても、暖房はあるものの、窓ガラスが割れているところがあり、朝晩の寒さがこたえるというところ。

Q5) 災害派遣にいて現地の方からどんな声があったか。

A5) 大阪から来てくれてありがとうなど、感謝の言葉を多くいただくことができた。

本市としても、この災害支援から学んだ知識・経験を活かしていくことが必要であるという認識を共有し、閉会となった。



【問合せ】

守口市役所 危機管理室

電話 06-6992-1349 (直通)